

Fig1. OpaqueRPC.cdlのコンポーネント図

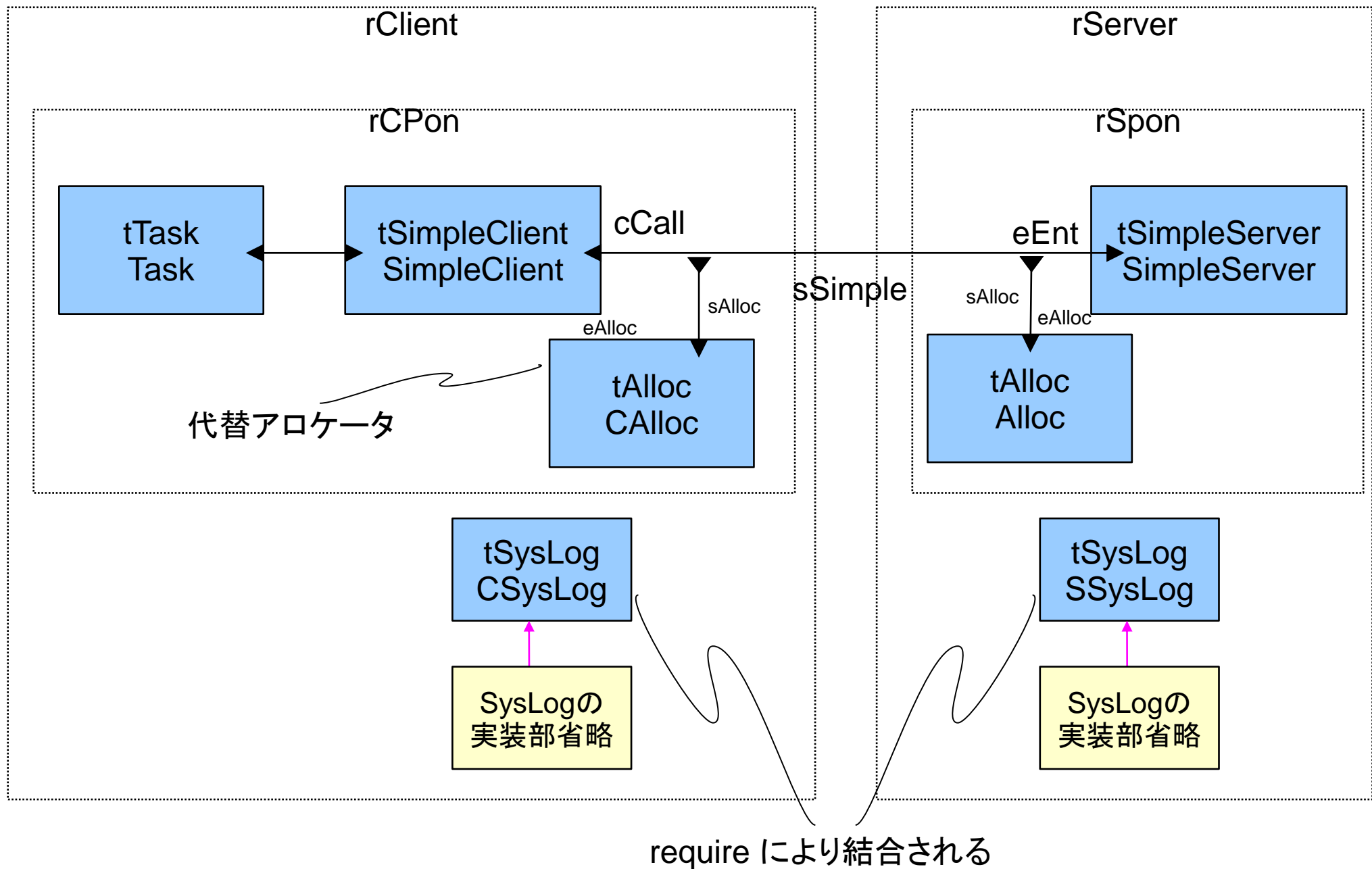
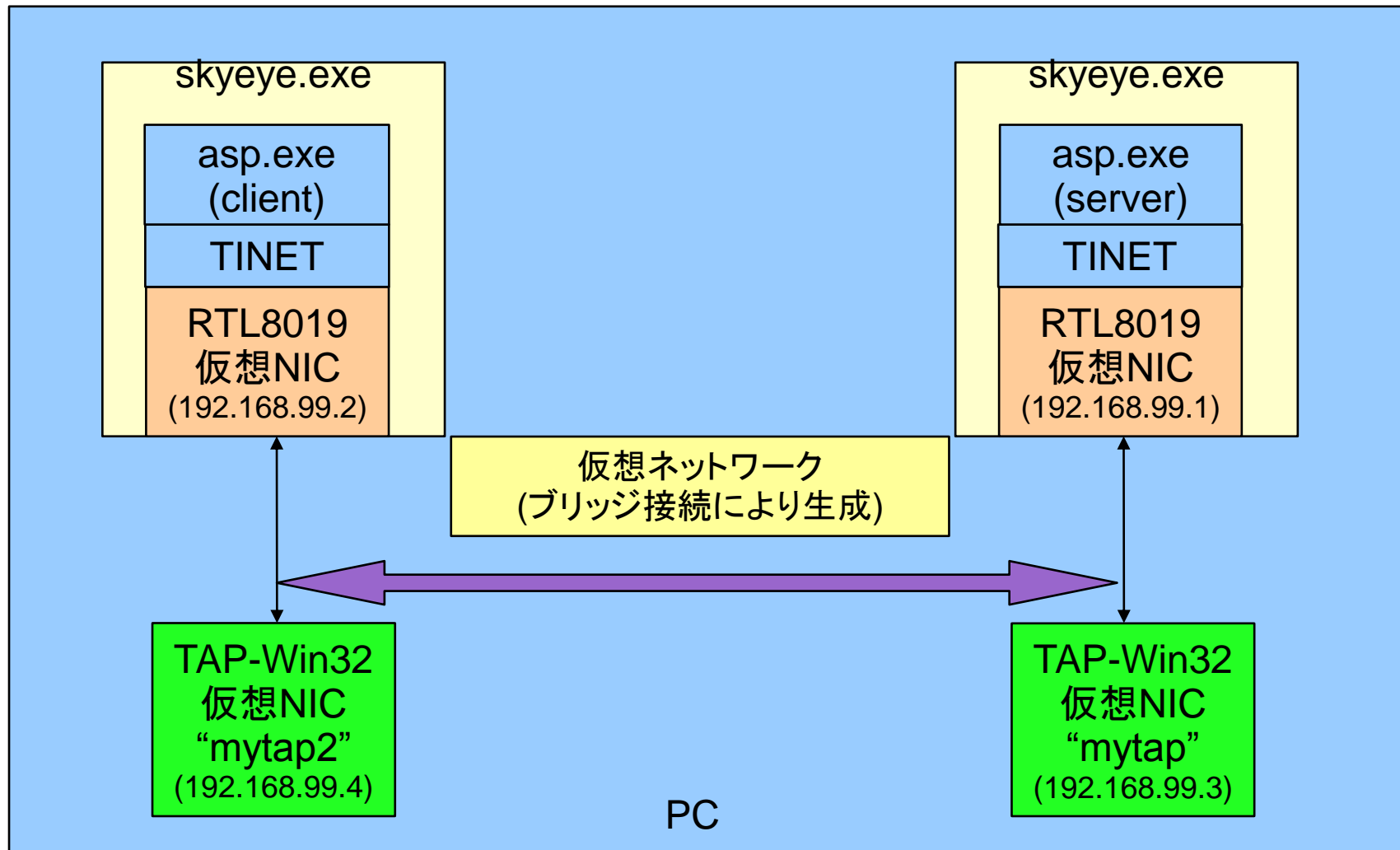
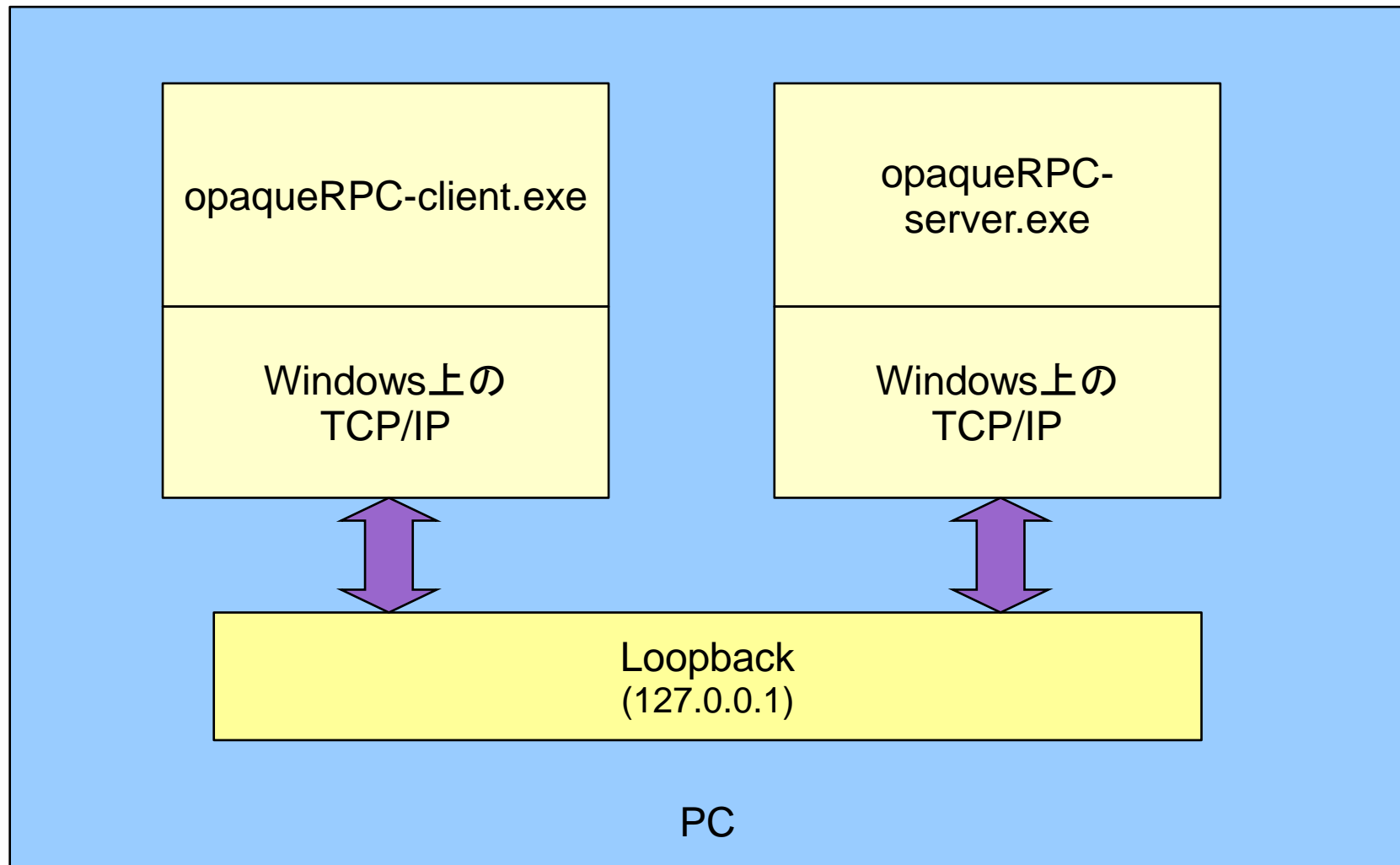


Fig2. skyeye上のクライアントとskyeye上のサーバーを  
接続してテストする環境



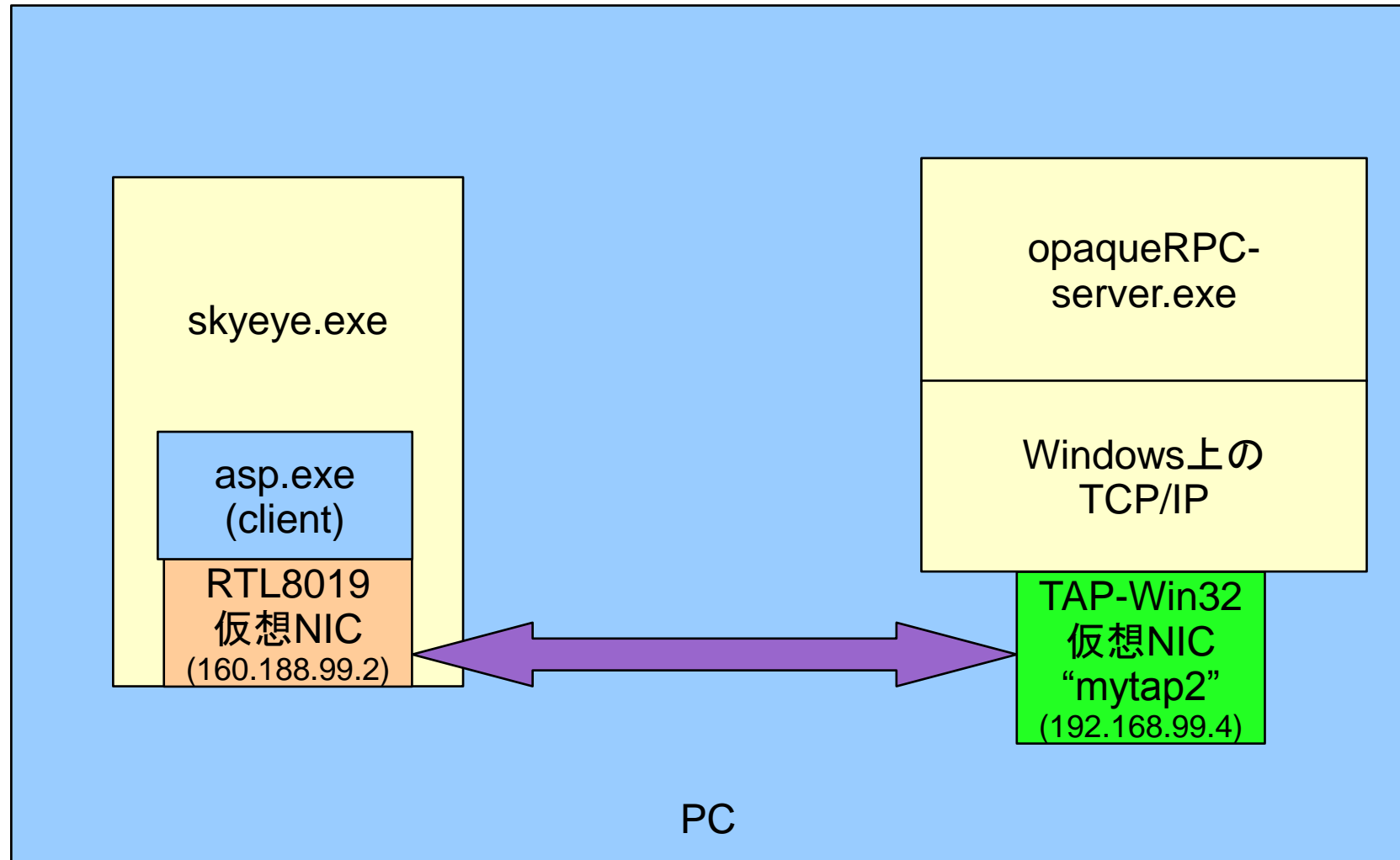
skyeye上でクライアントとサーバを接続テストする。  
両方を起動後、TAP-Win32同士をブリッジ接続することで、通信する。

Fig3. cygwin上のクライアントとcygwin上のサーバーを  
接続してテストする環境



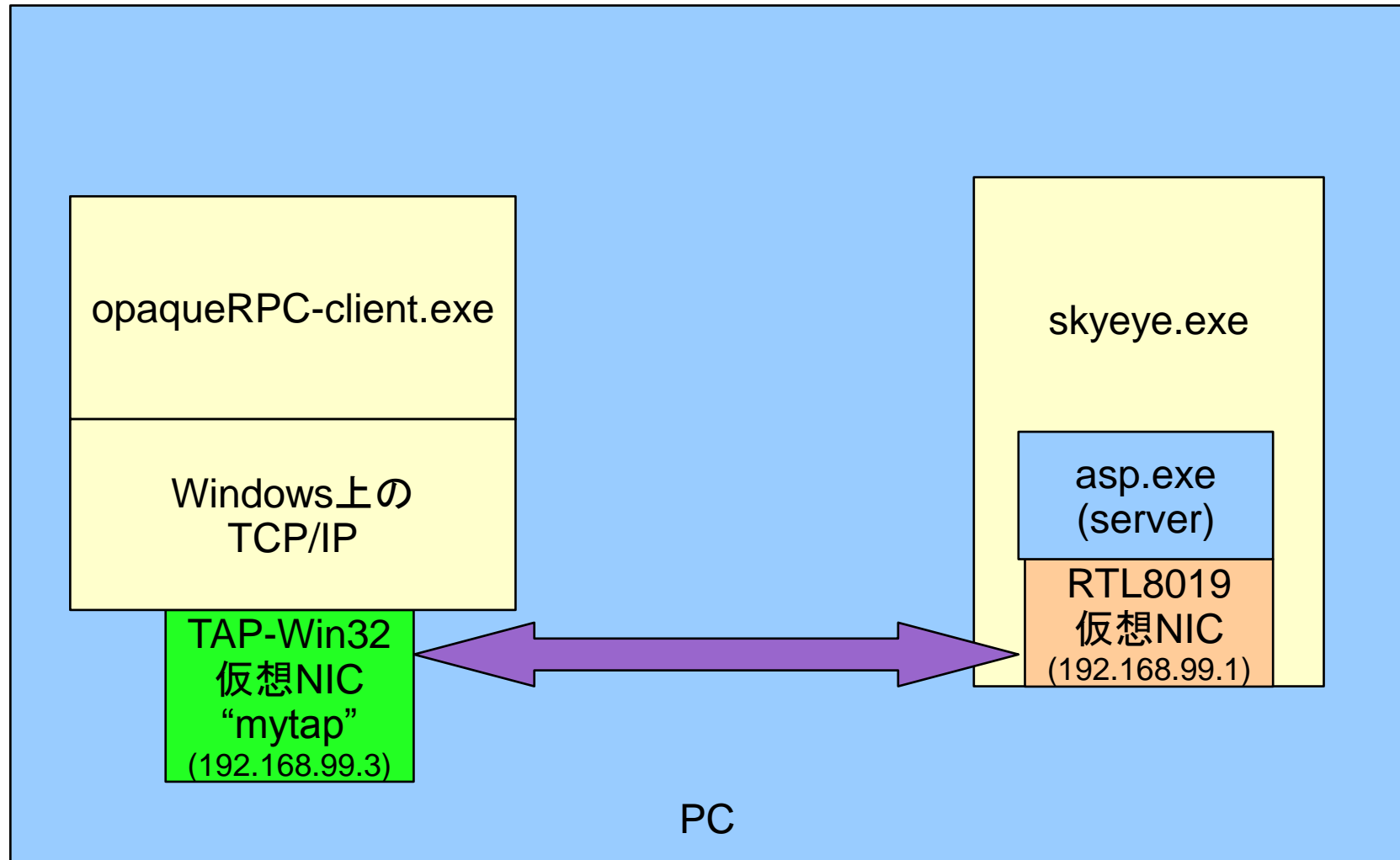
loopback インタフェース(127.0.0.1)を使用する例。  
仮想インタフェース(TAP-Win32)も、NIC のアドレスを変更する必要もない。

Fig4. skyeye上のクライアントとcygwin上のサーバーを  
接続してテストする環境



1台のPCで、一方でskyeye版を起動して、もう一方でcygwin版を起動してテストする。  
ブリッジを構成していない状態を示す。(ブリッジを構成した状態でも問題なく動作する)

Fig5. cygwin上のクライアントとskyeye上のサーバーを  
接続してテストする環境



1台のPCで、一方でskyeye版を起動して、もう一方でcygwin版を起動してテストする。  
ブリッジを構成していない状態を示す。(ブリッジを構成した状態でも問題なく動作する)